WHITE PAPER

より効果的な結果管理によるコストの削減

概要

データ通信敷設業者は、メーカー保証要件のサポート、顧客要件の適合、製造品質の確保などさまざまな理由についてケーブル・システムを認定します。テスターから得られた結果の管理は重要であり、認証プロセスの中で時間を要する部分でもあります。

世界中の 880 の敷設業者を対象とした最近のフルーク・ネットワークスによる調査では、直近の 1 か月に平均 1,026 リンク設置したという結果が得られました。すべてのテストを 1 つのレポートにまとめるジョブは多大な時間とコストを要する場合があります。別の調査では、敷設業者の 77% が直近の 1 か月に結果管理の問題点に対処する必要があったと回答しています。Let's look at these issues.

PC での作業内容は数分おきに保存するのに、なぜケーブル・テストの結果は **1** 日 **1** 回しか保存しないのでしょうか？

目次

概要

結果管理の問題点

使用するテスター の多さに比例して増大する複雑化

最悪のシナリオ

クラウド・サービスが提供するソリューション

まとめ

結果管理の問題点

顧客からは、結果管理に時間がかかるという問題が多数報告されています。最も一般的な問題は次の 3 つです。

- Cable identifiers in the reports don't match the specifications and need to be manually edited
- 複数のテスト・タイプ（銅線、ファイバー Tier 1、Tier 2、別の規格）を 1 つのレポートに結合する必要がある
- レポートが未完成なため、それらを再度作成し直す必要がある

建設事業者は、これらの問題に 1 か月あたり 7.9 時間費やしたと回答しています。これはほぼ丸 1 日に相当します。

これは、現場から結果管理を行うオフィスへの結果（通常はテスターに保存されている）の移動に要する時間とは別にかかる時間です。そのような理由でテスターを次のジョブに回せないため、他のジョブに影響を与える可能性もあります。

使用するテスターの多さに比例して増大する複雑化

1 つのジョブで 1 台のテスターを使用する建設事業者にとっては、これは深刻な問題です。ただし、1 台のテスターを 1 つのジョブ専用にするような余裕のある建設事業者はほとんどいません。効率を最大化するため、ほとんどの建設事業者は、複数のテスターを所有またはレンタルして、複数の同時ジョブで使用します。

このような状況で結果を正しく追跡することはさらに困難になり、次のような新たな問題をもたらします。

- テスト結果が複数のテスターに保存されており、その結果を探し出して集約する必要がある
- 別のジョブのテストが間違ってレポートに記載されており、これらを除去する必要がある
- レポートの作成中に、すべてのリンクがテストされていないことを発見し、作業員が業務を終わらせるために現場に戻らなくてはならない

敷設業者は、この問題の対処に 1 か月あたり平均して 7.3 時間を費やしていると回答しています。つまり、これで 1 か月に約 2 日間を余分に費やしていることになります。さらに、会社が多くのテスターを所有するほど、レポートされる問題の範囲が拡大します。顧客が挙げる関連問題は、このような状況下でのジョブ・ステータス追跡時の可視性の不足です。

最悪のシナリオ

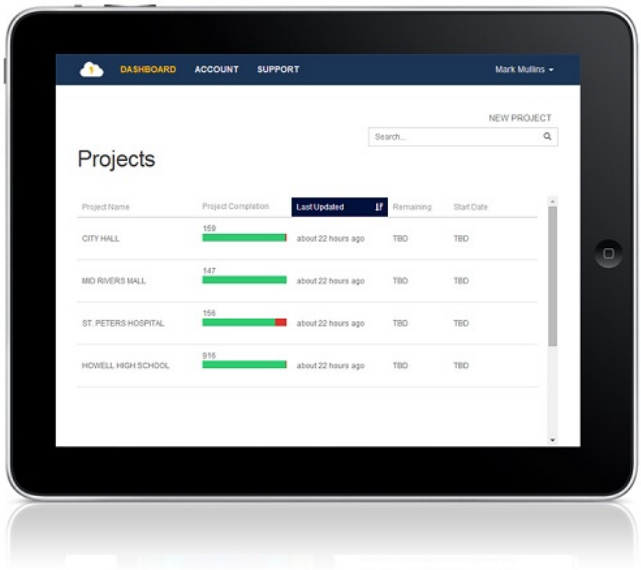
その他のあまり一般的でない問題がはるかに悪い可能性があります。市場には何万台ものテスターがあるため、当社のテクニカル・サポート・チームは、顧客個人では対処できない問題が多数存在することを理解しています。たとえば、当社には定期的に、結果が保存されているメモリ・カードを誤って消去または破損した場合の復元方法を問い合わせる電話がかかってきます。残念ながら、ほとんどの場合、すべてのテストを再度やり直すようにお答えするしかありません。結果が保存されているテスターまたはメモリ・カードの紛失または盗難が起こる可能性もあります。その場合、再テストも必要になります。Thankfully, these are not common problems, because a single lost tester or erased data card can mean losing a full day's or even a week's worth of multiple techs' time – dozens of hours lost and long delays in the project.

クラウド・サービスが提供するソリューション

高速モバイル・ネットワークと低コストのデータ・ストレージの出現により、データの管理と保存の新しい方法であるクラウドが一般的になりました。テスターから結果を取得し、クラウドに上げることで、データ損失の可能性が最小限に抑えられます。Testers don't need to be recalled from the field. 結果は自動的に適切なジョブに集約されます。

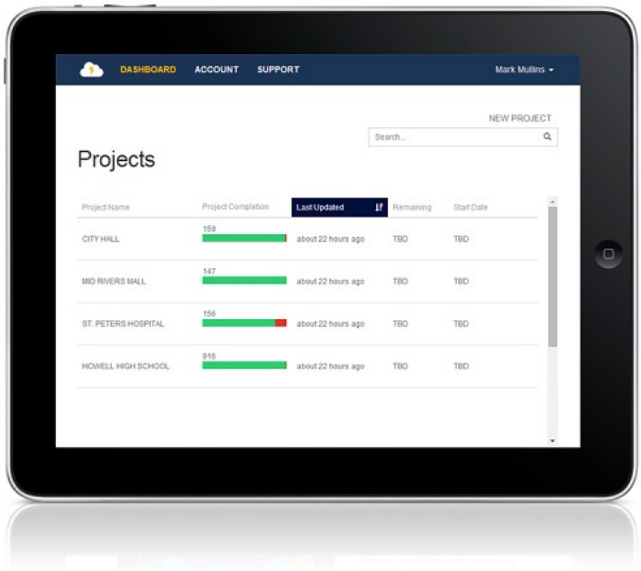
LinkWare™ Live adds a cloud capability to the industry's leading reporting solution and testers. Versiv™ テスターは、有線 Ethernet または Wi-Fi 接続を介してインターネットに接続できます。Ethernet または Wi-Fi ネットワーク接続が使用できない場合は、Versiv ユニットをパーソナル・ホットスポットとして設定さ

れているスマートフォンに無線で接続して、結果を LinkWare Live サービスに送信できます。



LinkWare Live は、銅線およびファイバーのテスト結果をプロジェクトごとに管理するクラウドベースのサービスです。

ネットワークに接続すると、いくつかのキーを押すだけで結果をアップロードできます。Versiv でのテストはプロジェクトに連結されているため、テストがクラウド・サービスに接続されると、該当するプロジェクトに自動的に追加されます。処理はとても速く、1 日に何度も行われることがあるため、カードの破損やテスターの盗難の影響が最小限に抑えられます。

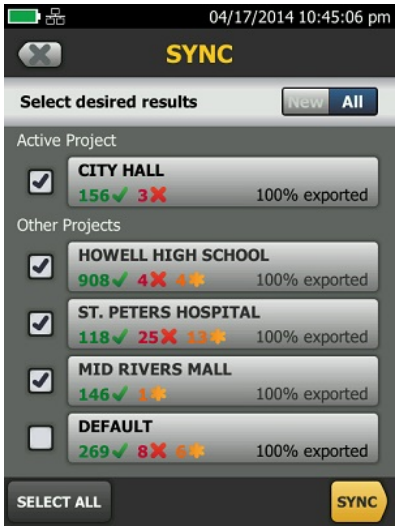


LinkWare Live には、プロジェクトと結果の詳細が表示されます。

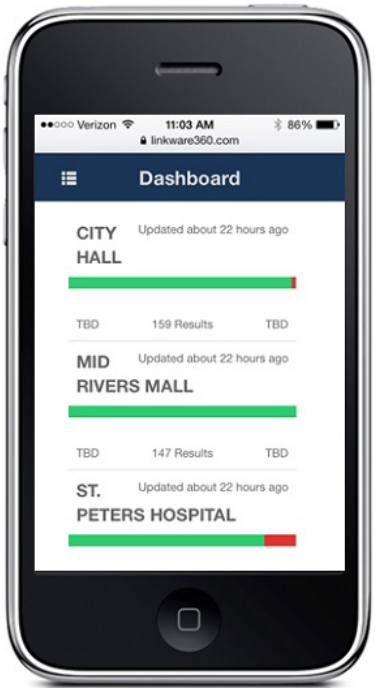
レポートを生成するときは、LinkWare Live から、LinkWare が搭載された PC に結果をダウンロードするだけです。そこから、プロジェクトのステータスを確認して、結果の欠落や間違った結果をすぐに特定できます。いくつかのキーを押すだけで、詳細なレポートを生成できます。

LinkWare Live は Versiv テスター内で設定されたプロジェクトを把握しているため、プロジェクトのステータスを追跡できます。And since it's cloud-based,

this information can be accessed from anywhere by tablet or smartphone. プロジェクト・マネージャーまたはコンサルタントには、プロジェクトのステータスのほぼリアルタイムのビューと、個々のテスト結果にドリルダウンして適切に実施するための機能が提供されます。



Versiv は結果を管理し、プロジェクトごとに結果を *LinkWare Live* にアップロードします。



プロジェクト・マネージャーは、スマートフォンがあれば、どこにいても *LinkWare Live* を使用してプロジェクトのステータスを追跡できます。

まとめ

クラウドベースのサービスを介した結果の管理には、次のような重要な利点があります。

- テスターを現場から回収する必要がなく、テスト結果をダウンロードするだけであるため、生産性が向上する

- すべての結果が自動的に適切なジョブに集約されるため、時間が短縮される
- テスターまたはメモリ・カードの紛失、盗難、または消去などが発生した場合にテスト結果が失われる可能性が低くなるため、作業し直しが減る
- 結果に即時アクセスして迅速なトラブルシューティングを行うことができる
- どこからでもプロジェクトのステータスをリアルタイムに確認できる

クラウドベースのサービスの使用は、問題を回避し時間を節約できる賢明な方法です。PC での作業内容は数分おきに保存するのに、なぜケーブル・テストの結果は 1 日 1 回しか保存しないのでしょうか？

フルーク・ネットワークスについて

フルーク・ネットワークスは、優れた認証/トラブルシューティング/インストレーション･ツールを提供する世界大手企業です。当社の製品は、重要なネットワーク・ケーブル配線インフラを設置・保守する技術者を対象にしています。弊社は、信頼性と比類ない能力において高い評価をいただいております。最先端のデータセンターの設置から悪天候のサービス復旧作業に至るまで、すべての作業を効率的に行います。当社の主力製品には、クラウド接続を利用した世界最先端の革新的ケーブル認証ソリューション、LinkWare™ Live が含まれ、これまでに 1400 万件以上の結果がアップロードされています。

1-800-283-5853 (US & Canada)
1-425-446-5500 (米国外)
http://www.flukenetworks.com

Descriptions, information, and viability of the information contained in this document are subject to change without notice.

Revised: 2019 年 10 月 1 日 11:52 AM
Literature ID: 6003677

© Fluke Networks 2018